

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム V2.7.0 (2016) | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	レクサス山王 新築工事	階数	地上3F
建設地	名古屋市中川区	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	60人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,700時間/年(想定値)
建物用途	物販店、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年8月 予定	評価の実施日	2023年7月14日
敷地面積	2,231 m ²	作成者	
建築面積	1,856 m ²	確認日	2023年7月14日
延床面積	4,113 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

環境品質 Q

環境負荷 L

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 99%

③上記+②以外のオンサイト手法 99%

④上記+オフサイト手法 99%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能

Q1 室内環境

Q3 室外環境 (敷地内)

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.4

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.5

Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 3.0

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.6

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.1

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
<p>レクサスブランドのショールーム計画。周辺の景観に圧迫感を与えないよう、彩度の低い色彩の外装材や、外から見えるインテリアには木材を多様するなど景観に配慮している。また、西面建物エントランスの緑化や、東面の壁面緑化により、緑豊かな景観形成へ配慮している。施設設備は、節水型衛生器具や全館LED照明の採用、Low-Eガラスの採用など、各所、環境に配慮した仕様を採用している。</p>		
<p>Q1 室内環境 複層ガラスの採用、断熱材の強化により外皮性能を上げるなど温熱環境に配慮している。また、F☆☆☆☆建材を全面的に採用し空気質環境にも十分配慮している。</p>	<p>Q2 サービス性能 階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。非常用発電機を採用、通信設備の多様化、また、補修必要間隔の長い仕上材、配管材を採用するなど建物の耐用性・信頼性に配慮している。</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内) 敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。緑地を設けることにより良好な景観を形成している。</p>
<p>LR1 エネルギー 断熱材を強化し、建物の熱負荷を抑制している。また、消費エネルギー量を把握し、効率的運用に配慮している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル 自動水栓や節水型機器を用いるなど水資源を保護している。また、フリーアクセスフロアを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。</p>	<p>LR3 敷地外環境 適切な量の駐輪場・駐車場を確保し利便性に配慮、出入口は交差点を避けて複数配置するなど交通負荷の抑制に配慮している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

レクサス山王 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				2.7
LR1	エネルギー	2.6	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.10759972	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.010759972	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.05379986	
3. 循環型社会				3.1
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 2.7



2. 自然共生

評価点 = 2.9



3. 循環型社会

評価点 = 3.1



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。